

◆ 平成 26 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：上町ホタルの会

代表者：会長 松本隆太郎

URL :

1. 活動が必要とされた状況

本会は、ホタルが飛び交う里山の姿を復元させる活動を平成 22 年度より始めた。押堀川に注ぐ武甲山の湧水を左岸陸地に導き、そこに人工のビオトープを作って、ホタルの圃場と成した。それが実って、今ではゲンジホタルが群舞する光景が見られるようになった。同時に、周辺の草刈りや伐採、彼岸花やカエデの移植なども行い、人々が自然の景観を楽しめる憩いの場づくりに努めた。

残念なことに、ゲンジホタルの飛翔は、川面と、左岸ビオトープ上空が中心であった。地域人が生活している右岸でも、ホタルを身近に見ることができれば、安全でより多くの人が楽しむことができる。この願いの実現が、26 年度の活動の中心となった。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・ 誘水パイプの敷設と重機掘削工事の開始 9/27
- ・ 第 1 号池へのシート・瓦敷設と貯水が完了 10/21
- ・ 池周囲に残った隙間の埋め込み作業 11/9
- ・ 全池貯水、排水路の設置等完了 11/17
- ・ 池周囲への土盛り完了 12/8
- ・ 防護柵用の基礎ブロック埋め込み完了 1/17
- ・ 防護柵組立作業及び塗装作業完了 2/15
- ・ 月 2 回の活動で、除草下刈り、彼岸花植付、既設圃場の整備、カワニナ等の世話（毎回 10 人前後）
- ・ 6 月の約一月間、現地にて、ホタル観賞の警備や案内活動（観賞記帳者 1,159 名）



パイプ敷設と重機掘削作業



池周囲への土埋め戻し作業

3. 活動の成果

- ・ ゲンジホタルの飛翔数は、年々増加
- ・ ホタル観賞客は 1,500 人を上回ったと推定
- ・ 右岸ビオトープ設置を機に、秩父県土整備事務所との連携や協力の高まり
- ・ 右岸の各池に、カワニナ投入済み。今夏にゲンジホタル幼虫放流予定。28 年 6 月ホタル観賞可能
- ・ 里山の環境保全が進み、観光資源になりつつある。



完成したビオトープと防護柵

4. 今後に残された課題

ビオトープから土手に這い上がったホタルが、人の侵入によって被害を蒙らないように、柵内にゲンジホタルの止まり木となれる花木を植樹する必要がある。

また、主要鉄道駅から徒歩 30 分以内の優れた立地条件に恵まれたお蔭で、年々増加する一方のホタル観賞客のトイレ問題も解決しなければならない課題である。本会の力だけでは不可能なので、簡易トイレ設置も含めた解決策を地元の行政組織と手を取り合って、前進させる必要がある。